愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第7号，pp.231～238,March,2022

教育実習に向けての模擬授業の効果

原田　悦子

家政教育講座

Effect of mock lesson for practical training

Etsuko HARADA

Department of Home Economics Education，Aichi University of Education，Kariya 448-8542，Japan

Keywords：教育実習　模擬授業　修正指導案

本稿は、現在家庭専攻３年生の学生対象の初等家庭科教育法（2020 年前期）、中等家庭科教育法（2021 年前期）、後期教育実習事前指導（2021 年８月）で行った学修及び演習について、その内容と学生の振り返りを報告することを目的とする。なお、本稿で示す振り返りは、教育実習事後指導の際に行ったアンケート結果を中心にしている。

筆者は、小・中学校教員を経た実務家教員である。現職中は管理職として、教員の資質向上に努め、定年退職後は、拠点校指導員として２名の初任者の指導を行った。その際感じたことは、やはり教員にとって一番大切なことは授業づくり・授業力であるということだ。授業づくりには、教材研究と子どもを見取る力が大切であり、不可欠であると思う。また、授業力は何度も経験をする中で身に付いていくものだと考えている。

教員養成大学で家庭科教育法の授業を構想した時、最初に思ったことは、実践的な授業力を育成し、学校現場に送り出したいということである。そのためには学習指導案をきちんと書かせ、受講者全員に模擬授業を経験させたいと考えた。模擬授業を行うためには、学習指導要領や教材を理解する必要がある。そこで、初等科家庭科教育法では、前半で学習指導要領の改訂のポイント、教科書の構成・内容を押さえ、後半で学習指導案を作成し、模擬授業を行った。中等家庭科教育法では、中学校と小学校の学習指導要領や教科書の共通点と違いを押さえ、模擬授業をする時間を多く設定した。教科教育法では教室と時間の制約があるのでグループでの模擬授業としたが、後期教育実習事前指導では、６つの教室に分かれ、一人ずつ 45 分間または 50 分間の模擬授業を行った後、授業分析を行い、そこで出た意見をもとに修正指導案を作成するところまで行った。

本稿を通して、教員養成大学で模擬授業を行うよさを示していきたい。

Ⅰ　初等家庭科教育法について

１　初等家庭科教育法（2020 年前期）の学修内容

2020 年度前期は、かつてない感染症の流行により大学構内への立ち入りが禁止され、遠隔授業主体の授業となった。最初の５回は課題提示方式、６～９回は Microsoft teams によるオンライン授業、10～15 回は対面授業で行った。

（１）初等家庭科教育法シラバス(2020 年前期)

初等家庭科教育法は、他講座専攻の学生も同じ内容で授業をしている。小学校では、担任が全教科を授業する。プログラミング、英語、道徳等、新規の教科領域をこなすのに時間が足りず、担任の行う家庭科の授業は、後回しにされる傾向がある。裁縫が苦手だという思いも強く影響しているように感じる。そこで、基礎縫いでできる作品を製作する機会を設けている。

１回	遠隔	新学習指導要領の改訂のポイントを知る NITS(独立行政法人教職員支援機構)
２回	遠隔	小学校５年生から家庭科の学習が始まる理由について考える
３回	遠隔	小学校での全ての学習活動と家庭科の学習内容との関連
４回	遠隔	玉結び、なみ縫い等の基礎縫いの練習
５回	遠隔	生活の課題と実践レポート 防災、ユニバーサルデザインが教科書でどのように扱われているかを調べる
６回	teams	１～５回までの課題の補足説明
７回	teams	あづま袋作り　巾着袋の解体・修復
８回	teams	あづま袋と環境問題 生活の中のプログラミング

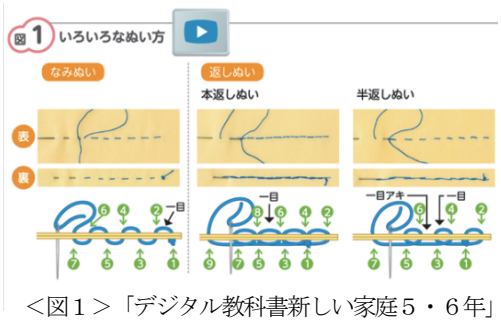
9回	teams	教員による模擬授業（契約） 学習指導案の作成の仕方と留意点
10回	対面	学習指導案の作成（グループ） ※個人の学習指導案を持ち寄り話し合う
11回	対面	学習指導案による模擬授業①
12回	対面	学習指導案による模擬授業②
13回	対面	学習指導案による模擬授業③
14回	対面	学習指導案による模擬授業④
15回	対面	生活の課題と実践レポート発表会 授業力向上のための授業改善

（2）模擬授業に向けて工夫した点

学生が行う模擬授業の参考になるように、筆者も学生に授業をする際は、いろいろなツールやスキルを活用し、学生に実際に体験させ、その都度解説をした。

① デジタル教科書

家庭科のデジタル教科書には、「▷」をクリックすると、「なみ縫い・本返し縫い・半返し縫い」の動画を繰り返し再生する機能がある。教科書を見ながら作業をさせることも良いが、図だけではイメージがわかなかったり一斉指導では理解しきれなかったりする。そこで、基礎縫いの練習時に、一番理解しにくい「半返し縫い」の動画を繰り返し流した。この動画は、一度再生すると、停止ボタンをクリックするまで何度も再生するようになっている。学生は自分のタイミングで動画を見ていた。その間筆者は個別支援ができた。



＜図１＞「デジタル教科書新しい家庭５・６年」（東京書籍）

②NHK for school「カテイカ」（小学校家庭科番組オンデマンド）

NHK教育テレビの番組は、小学校の授業によく取り入れられてきた。６年くらい前から小学校家庭科番組「カテイカ」も放送されるようになった。学校現場に教師用タブレットが普及したおかげで、タイムリーに活用できるようになった。学生に手縫いの授業の導入で見せると、初めて見るという声が多かった。

＜図２＞NHK for school「カテイカ」

③書画カメラ

作品や資料を大きく拡大して見せたいときに使用した。

④単焦点プロジェクター

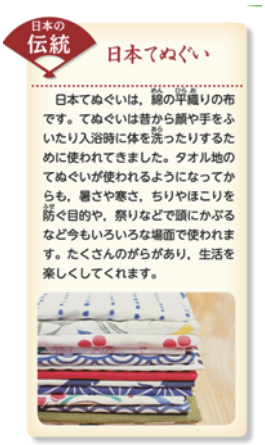
ホワイトボードに直接画像を写し、そこに書き込むことができることを伝えた。

⑤授業形態（個→ペアまたはグループ→全体）

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を目指すためには、まず個人で考え、ペアまたはグループで対話し、クラス全体で情報の共有化、意見交流をすることが大切である。授業のなかで「個→グループ→全体」という形態で話し合い活動を繰り返し行い体験させた。

⑥あづま袋

百円ショップで手ぬぐいを購入し、あづま袋を製作した。教材会社から購入した材料ではなく、身近で安価な手ぬぐいで簡単に作品づくりができることを知らせた。短時間で簡単にできるので、実際に学校現場で取り入れたいという意見も聞かれた。また、実際に生活の中でレジ袋代わりに使用し、あづま袋の教材性と環境問題についても考えさせた。手ぬぐいが日本の伝統文化、環境問題についても考えるきっかけとなり、身近なものから教材を見つけ、授業づくりをする楽しさを伝えた。



＜図３＞「新しい家庭５・６年」（東京書籍）

⑦筆者による模擬授業→学習指導案の書き方指導

筆者が、新規学習内容「契約」の模擬授業を行った後、その授業の学習指導案を配付し、実際に体験したことが、学習指導案上にどのように表記されているのか確認した。それから具体的な学習指導案の書き方を指導した。

⑧マナボード（フィルム付き小型ホワイトボード）

筆者が、新規学習内容「契約」の模擬授業の際に、グループ活動で使用し、その有効性を学生が体感し模擬授業では、多くの者が活用した。筆者も見たことのない使い方をするグループもいて大変興味深かった。

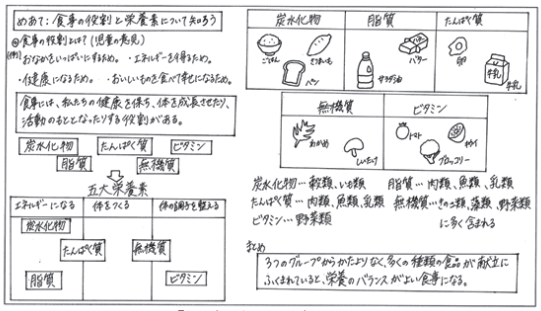
※筆者は自分で持っているが、本学ではＡＬルームにあり貸し出し可能である。

⑨「他に」ではなく「続けてどうぞ」

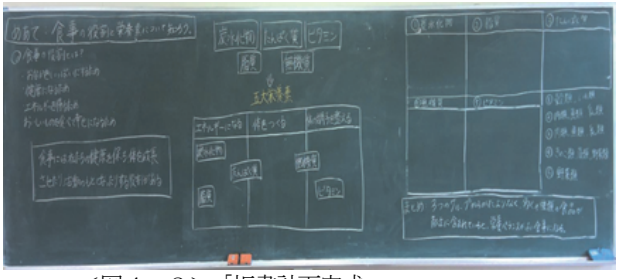
一斉授業ではなく、子どもの考えを引き出し、まとめていくのが現在の授業形態の主流である。そこで、子どもの発言を否定も肯定もすることなく、「続けてどうぞ」と、発言をつなげるようにと伝えた。実際に、筆者も学生の意見をつなげて「続けてどうぞ」と言っている。

⑩板書計画の作成

学習指導案が完成したら、板書計画を作成させた。本時の学習過程が具体的でないと、板書計画はできない。まず紙に書かせ、それを実際に黒板に書き、写真を撮り、学習指導案とともに提出させた。図４－１を実際に板書すると、図４－２のようにレイアウトが変更になった。学生からも板書計画を立てているうちに学習過程が変わってきたので、板書計画の大切さを実感したという感想を聞いた。



＜図４－１＞「板書計画下書き」



＜図４－２＞「板書計画完成」

⑪模擬授業の振り返りカード

模擬授業の際は、①授業のユニバーサルデザイン ②新規学習内容　③地域教材　④マナボード　⑤ＩＣＴ活用のいずれかを取り入れることにした。そして、次の視点(※)で授業の気づきを記入させた。※「教師の言葉」(言葉がけ)「教師の体」(体の向き、立ち位置)「子どもとの関わり」(机間指導、発言の受け止め方)「教材」「板書」「授業の展開」(終わり方)

模擬授業の振り返り　年　月　日（　）限　学籍番号（　　）氏名（　　）

模擬授業のテーマ	① UD　② 新規学習内容　③ 地域教材　④ 学習ボード　⑤ ＩＣＴ　⑥ その他（　　）
授業者	
題材名	

① 次の観点で気づいたこと

＜教師の言葉＞　＜教師の体＞　＜子どもとの関わり＞　＜教　材＞　＜板　書＞　＜授業の展開（終わり方）＞　＜その他＞

② 教師役として、子ども役として気づいたこと　④その他・感想・要望等

＜図５＞「模擬授業振り返りカード」

（３）模擬授業について

遠隔授業が多く、対面授業を行っていないため空いている教室があったので、２つの教室に分かれて、同時に２グループずつ模擬授業を行った。１グループ５人で、順番に変わっていった。具体的には、次のようなタイムテーブルで行った。

- 模擬授業①　(30 分間)
- 授業分析記入 (10 分間)
- 模擬授業②　(30 分間)
- 授業分析記入 (10 分間)
- 授業者の振り返り・コメント(10 分間)

2021 年度前期は、すべて対面授業で行えたので、少しでも模擬授業の回数を多くしたいと考えた。前半の学修内容を詰め込んで、模擬授業を６回確保した。1 グループ３人で、２つの教室に分かれ、次のようなタイムテーブルで行った。

- 模擬授業　(45 分間)
- 授業分析カード記入　(10 分間)
- グループワーク　(10 分間)
  ※「まねしたいこと」「アドバイス」「その他」の３観点で授業分析をマナボードにまとめる
- 全体発表　(15 分間)
- 授業者の振り返り・コメント (10 分間)

１グループ３人で 45 分間行うこの方式が有効であったので、2021 年度前期中等家庭科教育法でも実施した。

Ⅱ　中等家庭科教育法について

１　中等家庭科教育法（2021 年前期）の学修内容

（１）中等家庭科教育法シラバス(2021 年前期)

１回	オリエンテーション 新学習指導要領改訂のポイント ※NITS(独立行政法人教職員支援機構)
２回	小学校家庭科と中学校技術・家庭科（家庭分野）の比較① ※新学習指導要領の改訂のポイントの共通点、相違点、特徴
３回	小学校家庭科と中学校技術・家庭科（家庭分野）の比較② ※それぞれの教科書の共通点、相違点、特徴 学習指導案の作成（グループ）① ※個人の学習指導案を持ち寄り話し合う
４回	学習指導案の作成（グループ）② 板書計画、教具、ワークシートの作成 シミュレーション
５回	学習指導案による模擬授業、授業分析①
６回	学習指導案による模擬授業、授業分析②
７回	学習指導案による模擬授業、授業分析③
８回	学習指導案による模擬授業、授業分析④
９回	学習指導案による模擬授業、授業分析⑤
10 回	学習指導案による模擬授業、授業分析⑥
11 回	学習指導案による模擬授業、授業分析⑦
12 回	学習指導案による模擬授業、授業分析⑧
13 回	学習指導案による模擬授業、授業分析⑨
14 回	学習指導案による模擬授業、授業分析⑩
15 回	教材・教具と模擬授業の振り返り

（２）模擬授業について

2021 年度前期はすべて対面授業で行えた。中等家庭科教育法では、全員で同じ模擬授業に参加し、できるだけ少人数で、できるだけ多く模擬授業を行えるようにシラバスを工夫した。

前年度の初等家庭科教育法で学習指導案の書き方を指導していたので、最初にグループの授業場面を決め個人の学習指導案を作成してくるように指示した。予習として作成してきた学習指導案をもとに、グループの模擬授業のための学習指導案づくり、板書計画作成やグループでのシミュレーションも授業時間内に位置づけた。準備時間を確保したことにより、昨年度よりもじっくりと模擬授業に取り組むことができたように感じた。具体的には、１グループ４人で 50 分間の模擬授業を 10 回行うことにした。次のようなタイムテーブルで行った。

・模擬授業	(50 分間)
・授業分析カード記入	(10 分間)
・グループワーク	(10 分間)
※「まねしたいこと」「アドバイス」「その他」の３観点で授業分析をマナボードにまとめる	
・全体発表	(10 分間)
・授業者の振り返り・コメント	(10 分間)

Ⅲ　後期教育実習事前指導について

１　後期教育実習事前指導（2021 年８月）の内容

（１）後期教育実習事前指導の予定

一日目	9:10　日程・グループの確認（310 教室） 9:30　６教室に分かれる（304～310 教室） 9:40　模擬授業・授業分析① 11:00　模擬授業・授業分析② 12:10　昼食・休憩 13:10　模擬授業・授業分析③ 14:30　模擬授業・授業分析④ 15:50　集合・総評（310 教室）
二日目	9:10　模擬授業・授業分析⑤(304～310 教室) 10:30　模擬授業・授業分析⑥ 11:40　昼食・休憩 12:50　模擬授業・授業分析⑦ 14:30　集合・総評（310 教室）

（２）模擬授業に向けて工夫した点

①事前に学習指導案提出

中等家庭科教育法の最後の授業時に、事前指導の概略を説明し、教科と道徳の学習指導案を事前指導日の朝までにMicrosoft　teamsに保存しておくようにした。教育実習では、教科と道徳の指導案を作成し、提出するとともに、研究授業を行う。そこで、前期の授業が終わり、事前指導まで時間的余裕があるので、２種類の学習指導案を作成し、どちらかで模擬授業を行うようにした。

②６グループに分かれ模擬授業

二日間で、小学校ならば45分間、中学校ならば50分間の模擬授業を一人で行えるように、６グループに分けて模擬授業を行うことにした。

③単焦点プロジェクターの活用

学校現場で活用されていることの多い、単焦点プロジェクターの活用を体験させたいと考え、単焦点プロジェクターが設置されている304～309教室を使用することにした。

④学生たちによる進行

筆者と非常勤講師の二人で指導に当たったが、全部は観察することはできないので、教室ごとに順番に学生が進行するようにした。

⑤研究協議会

進行役が司会を務め、①子ども役参加者の振り返り・アドバイス　②授業者の振り返り　③筆者または非常勤講師のアドバイスという流れで、学校現場で行われているような形で模擬授業ごとに研究協議会を行った。

⑥修正指導案の作成

研究協議会での気づきをもとに、修正指導案を作成し、Microsoft teamsに保存することにした。

（３）模擬授業について

小学校での実習生は、高学年に配当されないと家庭科を担当できない。できるだけ配当学年がわかったらその学年の教科、道徳の指導案を書くことにした。実際には、家庭科、算数、国語、道徳の模擬授業が行われた。筆者も非常勤講師も小中学校の授業経験があるので、どの授業も十分指導ができた。学生も、家庭科だけでなく、算数、国語、道徳の授業を実際に行ったり、参加したりすることができたので、良かったと言っていた。

紙媒体で提出してもらった道徳の学習指導案を見ると、ほぼ全員が書き方がよくわかっていないようだった。きちんとした形式で作成できていた学生に昼休憩に尋ねたところ、全体指導の際に聴講した道徳の学習指導案の書き方を聞いた後に書いたからだということがわかった。つまり、他の学生はその前に作成していたため、わからないまま作成し、提出したのだった。そこで、一日目の最後に道徳の学習指導案の書き方を説明した。その際に使用したのは、全体指導の講師のスライド資料、道徳内容項目表、教育実地研究の手引である。教育実習に行く前に理解できて良かったと、学生に喜ばれた。

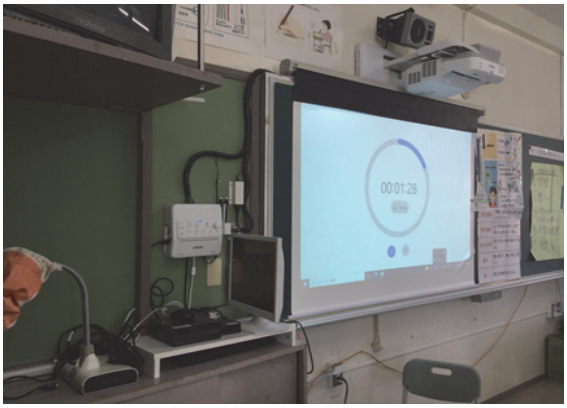
二日目の最後の全体会で「『他に』ではなく、『続けてどうぞ』という言葉で、子どもの意見をつなげていくこと」「大きな張りのある声と豊かな表情を意識すること」「めあて、まとめ、振り返りは必ず行うこと」を指導した。

Ⅳ　後期教育実習事後指導について

１　後期教育実習事後指導（2021 年 11 月）の内容

（１）教育実習校巡回訪問

担当校を巡回し、次のようなことを感じた。前期教育実習よりタブレットを活用する学校が増えているが学生はそれに対応できているのだろうか。学習指導案には、「ロイロノートを活用して資料を配付する」と書いてあるのに実際には行われなかった。授業後に尋ねてみると、前日まで練習してみたが、うまくいかず使用を断念したとのこと。実習に行く前にタブレットの活用方法を経験したかったとも言っていた。また、ある学校ではタブレット以外にも、教室に単焦点プロジェクター、書画カメラ、専用ＰＣ、スクリーンが常設されていた。タブレットの活用が浸透している学校では、黒板は使わずに、ほとんどタブレットで授業を進めているという話も耳にした。そこまで極端ではなく、不易と流行という観点で、アナログとデジタルを上手に組み合わせたハイブリッド授業が理想ではないかと思う。



＜図５＞「ある学校のＩＣＴ環境」

（2）後期教育実習事後指導の予定

・教育実習事後アンケート（筆者作成）
　※タブレット（ロイロノート）活用
・研究授業で行った内容を発表（グループ）
・教育実習で学んだことを発表（全体）
・学習指導案提出
・隣接校実習の登録確認

教育実習校巡回訪問でタブレット活用の習得が必須だと考え、ＡＬルームでロイロノートの使い方を研修させてもらった。コラボノートＥＸの研修会に参加した際に、ＡＬルームの存在を知り、まずは自分が体験してみようと思い、ＡＬルームを訪れた訳である。自分がロイロノートの使い方を学生に指導するのは到底無理だと思い、どうしたらよいかと思案した。その結果思いついたのが後期の中等家庭科教育法の中で、ロイロノートを活用した授業づくりを行うことだ。後期中等家庭科教育法担当者に相談したところ、快諾をいただいた。そこで、自分が担当する教職実践演習を受講する家庭専攻４年生と、家庭専攻３年生に空き時間を利用してＡＬルームに行ってもらうことにした。ＡＬルーム担当者の方に多大な迷惑をかけしてしまったが、全員が予定通りロイロノートの体験をすることができた。

（3）後期教育実習事後指導

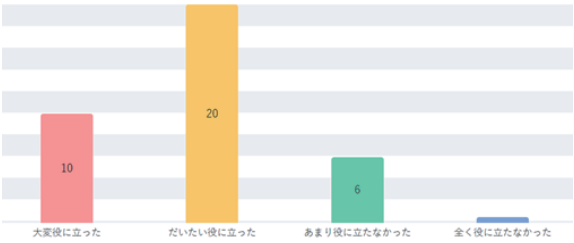
ＡＬルームからタブレットを借用し、ロイロノートを活用して筆者の作成したアンケートを行った。模擬授業で活用する前に、アンケートに回答することで、ロイロノートに慣れさせたいと考えたからである。アンケートの結果は、後ほど紹介する。

事前指導で教科と道徳の学習指導案を作成したことや模擬授業をしたことで、安心して教育実習に取り組むことができたという感想を述べる学生が多かった。また、実際に教員の仕事の一端を経験し、大変な仕事だと感じたがやりがいもあるので、教員になりたいという思いを抱く学生がやや増えたように感じた。

Ⅴ　アンケート結果について（母数 36）

１　初等家庭科教育法について

（1）　初等家庭科教育法で行った模擬授業は、役に立ちましたか。

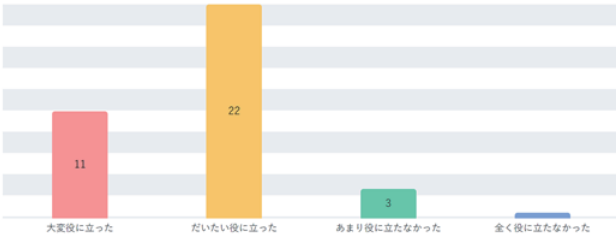


（2）初等家庭科教育法で行った模擬授業は、どのように役に立ちましたか。（自由記述）

・自分が授業をし、他の人の授業を見る事で、改善点や参考にしたい事を見つけることができた。教育実習の指導案作成にも役立てる事ができた。
・教科書の分析（災害や他教科との関わりなど）をしたことで、教科書内容を理解することができた。
・家庭科の授業は行なわなかったが、指導案作成や授業時間の感覚、授業展開の仕方などのイメージをつかむことができた。
・小学校でどのような内容を取り扱っているか理解することができたので、中学の授業を考える時にここまでは小学校でやっているから復習程度にやろうなど、力を入れる部分と力を入れない部分を把握できた。
・黒板の使い方やＩＣＴ機器の併用を考えながら授業を考えることができた。
・児童に対してどのようにすればわかりやすくなるのか、自分が授業をし、他の人の授業を見ることで、アイディアが役に立った。
・指導案を書く練習になった。　喋る練習になった。
・自分たちが考えた授業に対して、客観的に分析してもらったことで、様々な観点で授業づくりを行うことができた。
・教育実習において子どもたちの反応をどのように切り返していくかという面で参考にすることができた。

２　中等家庭科教育法について

（1）中等家庭科教育法で行った模擬授業は、役に立ちましたか。

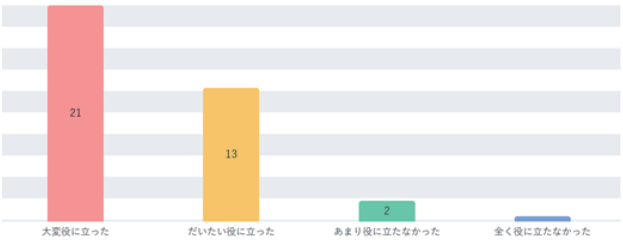


（2）中等家庭科教育法で行った模擬授業は、どのように役に立ちましたか。（自由記述）

・時間配分の感覚、板書の使い方をいかすことができた。
・グループワークやＩＣＴを使用した授業の組み立て方を実習の授業で活用した。
・準備するものなど小学校と中学校の違いを意識できた。
・生徒の興味を引くためにどうしたら良いのか工夫することができた。
・他に意見はありますか？ではなく、続けて意見はありますか？と問いかけること。
・授業の流れについてや授業で使えるテクニックについて、模擬授業を観察し検討する中で知ることができた。
・小学校６年生での実習だったので中学校とのつながりを考えながら、研究授業を行うことができた。
・小学校実習だったので、内容は異なりましたが、授業の組み立て方やみんなの授業を見て、さまざまな手法や言葉遣いなど、初等家庭科教育法の時よりも、ためになる学びがたくさんありました。
・模擬授業の後の振り返りが家庭科だけではなく、他の教科の授業にも役立った。
・中学生を相手にどの程度の内容を扱うかということについて、この授業で模擬授業を行うことで考えることができた。また、初等家庭科教育法以上にみんなからの授業に対して分析が鋭く具体的にどう改善すべきなのかをしっかりと考えることができた。

３　後期教育実習事前指導について

（１）事前指導で行った模擬授業は、役に立ちましたか。



（２）事前指導で行った模擬授業は、どのように役に立ちましたか。（自由記述）

・初めて１人で 45 分の授業を行う練習ができたので、実際に実習に行って授業をする時に、そこまで緊張せず授業ができました。また、みんなの指導案を teams で共有してくれたことによって、研究授業を考える際に、みんなのいろいろな案を参考にして考えることができ、とても役に立ちました。

・道徳の授業はやったことがなかったので、模擬授業で授業をすることができてながれがわかり、実習でも生かせた。

・机間指導の仕方や教師の話し方、指導案の書き方についてとても役に立った。

・一人で授業を考え、授業をするということをしたので、実際に教育実習で授業をするときに、授業をすることへの抵抗がなかった。

・目線や声掛けの仕方など、班の人の意見から改善できた。

・模擬授業を行った後に直接指摘を受けることで自分の至らない部分を把握することができ、授業の改善に役に立った。

・実際に児童の前でやる予定の授業をやれたので、先生や学科の友達からアドバイスをもらえて、 改善することができた。また、時間配分を掴む練習にもなった。

・実際に道徳で同じところを授業で扱って、出てくる意見などの参考になった。また、みんなからもらった意見を生かすことができた。

・机間指導のコツを掴むことができた。また、道徳の授業を実際に行い、どのように児童の意見を引き出すと良いのか考え、その方法を実習にいかすことができた。

・研究授業で行う範囲を模擬授業でしている人がいたため、指導案が作りやすかった。

・初めて１人きりで指導案作成し、50 分の授業を行った。実習直前に研究授業に近いかたちで練習できたことが自信になった。また、友人からアドバイスをもらい、授業で使えるテクニックについても知ることができた。

・研究授業の方法についてたくさん迷い実践した結果、最終的にやはり事前指導で行った方法が良かったので、研究授業をほぼ事前指導と同じ指導案ですることができた。

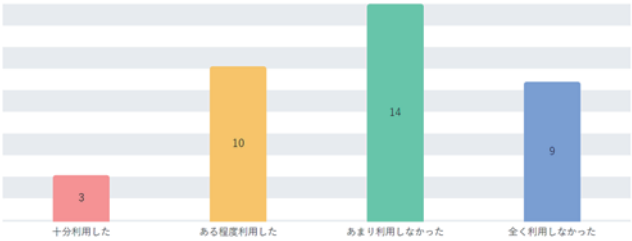
・子どもたちがつまずきそうなところや、予想される発言についてみんなと考えることができた。

・仲間や先生に自分一人で考えた授業を見てもらい、自分の授業の改善点やもう少し工夫したら良くなることを知ることができ、力がついた。

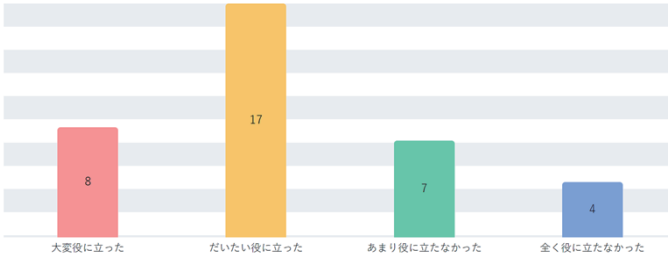
・45 分間を１人でリハーサルでき、流れや準備が足りない箇所が明らかになった。 良い点も改善点も意見を貰えて、勉強になった。

・原田先生がアドバイスしてくださったことを実践したら児童の反応が良かった。

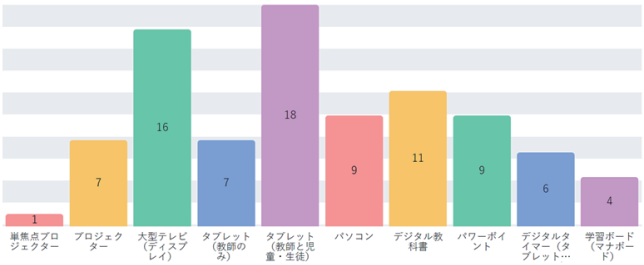
（３）教育実習で、事前指導の際の友だちの指導案のデータを活用しましたか。



（４）事前指導の際に修正指導案を作成したことは、教育実習に役に立ちましたか。



（５）教育実習で、ＩＣＴ機器やマナボードを活用しましたか。使用したものを全て選んでください。



（６）初等家庭科教育法、中等家庭科教育法で学修した内容を教育実習の授業に活かしましたか。具合的に記入してください。（自由記述）

・残す板書と残さない板書を意識することができた。

・黒板の使い方（掲示物や視覚教材の活用）、言葉遣い

・児童の意見を聞くときに「他に」と聞くのではなく「続けて」ときくことができた。

・机間指導をするということや、周りで話し合いながら授業を進めていくことを授業に活かすことができた。

・模擬授業で学んだ児童側の反応やつまずきなどを予想することでよりスムーズに効果的に授業を進めることができた。

・自分が担当した分野を模擬授業でやっていたグループの授業を参考にしたり、今までたくさん模擬授業を見たりして、こういう風に指示するといいな、こういう風に伝えると分かりやすいな、など学んだ事を生かせた。

・教科書を使うだけの授業ではなく、NHKforschool やまなボードなどたくさんの教材があるということを学んだことで、授業を考える上での自分の引き出しが増えました。

・授業の時、 板書に残さなくても良いものはパワーポイントを使うようにすること。 スライドの画面は使う時だけつけておくこと。 などの授業テクニック

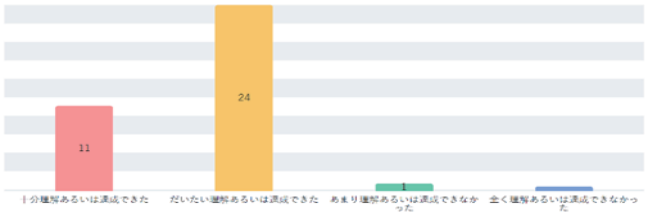
・次の作業へ移るときにはできたかどうかの声かけを必ず行った。

・事前指導の時に、友達が洗濯の部分を行なっていて、それを参考に授業を考えることができた。

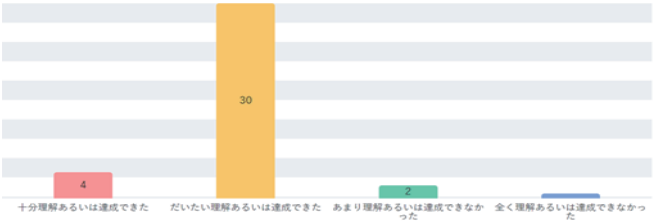
・子どもたちの発言を大切に拾い上げ、そこから展開すること。

4　教務企画課作成のアンケートについて

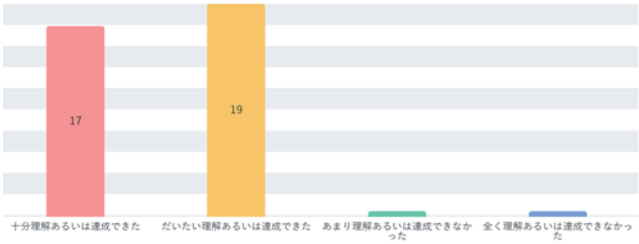
（1）教育実習で研究授業・教材づくりは適切にできていましたか。



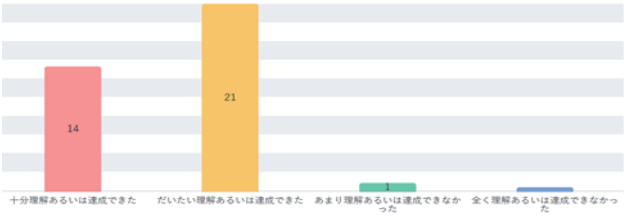
（2）教育実習で子どもや単元にふさわしい授業展開の構想づくりができていましたか。



（3）教育実習で研究授業を行う前に、授業のシミュレーションができていましたか。

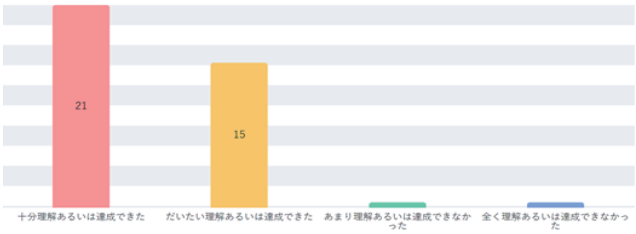


（4）教育実習で学習指導案にそった授業を意識して実践することができていましたか。

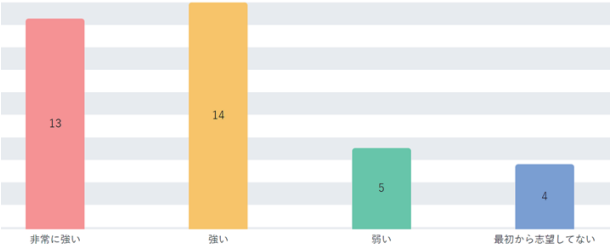


（5）教育実習で、掲示物やワークシート、実験材料などの準備することができていましたか。

（6）教育実習の授業協議会で授業実習の反省等を総括し、当面の課題が理解できましたか。



（7）教育実習終了時点で、教員の仕事に就きたいという志望度合いはどの程度ですか。



（8）志望度合いの理由は何ですか、具体的に記入してください。（自由記述）

・今までマイナスに思っていた教員の仕事がとてもやりがいがあり、毎日充実した一日を過ごすことができたから。

・元々教員志望でしたが、実習に行き改めて楽しさややりがいを感じたからです。

・授業を作ることの楽しさや生徒が自分の授業を受けて、家庭に生かしたいなどのコメントをみて、もっと学びの支援をしたいと思ったから。

・教育実習で教員になりたいという気持ちが大きくなり、子どもたちと触れ合うことで成長過程を知るなかで、共に学んでいきたいと思ったから。

・教育実習を行い、今の子どもたちの現状を知ることができたため、不安が少し消えたから。また、実際の現場に入って授業を行なってみることにより子どもたちから学べ得ることがたくさんあり、自分の成長につながったと感じられたから。

5　次年度に向けて

（1）次年度以降、初等家庭科教育法、中等家庭科教育法で行ってほしいことを具体的に記入してください。（自由記述）

・タブレットを使った授業づくり

・コロナ禍での調理単元の行い方（学校に家庭科の先生がおらず、みんなわからない感じだった。）

・実際に学校現場での家庭科の授業を見てから模擬授業をしてみたい。

・授業は１時間で終わるものではなく、単元構成も大切になると思うので、例えばこの班は消費の単元担当と決めてある程度の単元構成を考えたうえでどれか１時間を模擬授業するという形式がよい。反省を生かして指導案の訂正をした完全版を teams に保存したら、長く役立てると思う。

・さまざまな単元で使える教材や教材づくりについて詳しく学びたい。

（2）家政教育講座の事前指導で不十分と感じたこと（内容、時間数、場所等）、次年度への要望を具体的に記入してください。（自由記述）

・配属校は、ＩＣＴ教育を推進しており、ロイロノートも頻繁に活用していた。実習前にタブレット講座を受けたかった。

・実習記録の書き方の指導

・実習学年同士でグループ分けをする。

・子ども役の学生が少なかったため、可能であれば 10 人くらいの児童役が欲しかった。

・授業の単元が分かっているのであれば、それに応じてチームを組むことでアイディアが広がるのではないか。

・指導案の内容にまで踏み込んだコメントが欲しい。

Ⅵ　まとめ

一人の辞退者もなく、無事後期教育実習が終了した。事前指導で模擬授業（単独で45or50分間）を行ったことが教育実習で役に立ったと、36名中34名が評価している。事前指導だけで模擬授業を行ったら、きっと消化不良のままであったろう。初等家庭科教育法、中等家庭科教育法と、三段階の経験を経たからこそ、安心と自信につながったのだと考える。やはり授業づくり、授業力向上は、経験を積むことが一番である。筆者は、家庭科に特化した授業を指導しているのではなく、他の教科領域でも活用できる授業づくりを目指している。次に紹介するのは、中等家庭科教育法の最後に書かせた振り返りである。

・２年生の頃に小学校家庭科の模擬授業を行い、みんなで分析した経験、他教科で学んだ授業づくりのノウハウを活かして今回の模擬授業に臨んだつもりだったが、自分だけでは気づけない改善点や視点がたくさん見つけられた。また、授業を受けたり行ったりすればするほど、授業を行うことに対する要望が増えているような気がした。このことは教育全般に言えることで、社会や時代とともに教育に対する要望は変化していくと思う。その都度授業内容も方法も臨機応変に対応し、そのために教師も常にアップデート、まなび続ける姿勢が大切であり、不可欠なのだと感じた。全15回で学んだこと、模擬授業で失敗したことを家庭科に限らず、他教科の授業にも活用していきたい。

・模擬授業を自分がする立場の時も受ける立場の時もどちらも家庭科に限らず、すべての教科の授業をする時の勉強にもなりました。受けている立場の時はもう少しこうしたらいいのになと思ったけれど、自分が授業をする立場になると、周りを見る余裕がなくなってしまいました。心に余裕を持つためには、授業の準備を細かいところまですることと、慣れだと思いました。これからもっと多くの授業を見たり、自分で作ったりして、授業をすることに慣れていきたいです。

今、家庭専攻４年生とともに教職実践演習で、ロイロノートを活用した授業づくり・模擬授業を行っている。コロナ下で３年生後期の教育実習が２週間と短縮され、４年生前期の隣接校実習も、調理実習ができない等制約があり、本来の学びができていない面もある。しかしながら、回を追うごとに子ども役も教師役もタブレット（ロイロノート）の扱いに慣れていき、素敵な模擬授業を実践してくれている。４年生にタブレット（ロイロノート）を活用した授業を経験させたかったのは、来年４月に学校現場で授業をする時に、困らないようにと考えたからだ。教職実践演習の最初の時期に、実際に学校現場で一人一台のタブレットを活用した授業風景を参観し、イメージを膨らませてから、模擬授業を開始した。

本稿で紹介した家庭専攻３年生の学生が、４年生後期の教職実践演習でどんな模擬授業を見せてくれるのか、今から楽しみにしている。

参考文献

・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説家庭編
・小学校学習指導要領　家庭科の改訂のポイント
NITS(独立行政法人教職員支援機構)
https://www.nits.go.jp/materials/youryou/
・「NHK for school　カテイカ」（小学校家庭科）
https://www.nhk.or.jp/school/
・小学校家庭科教科書「新しい家庭５・６年」（東京書籍）
・小学校家庭科教科書「新しい家庭５・６年」指導者用デジタルブック（東京書籍）
・「あづま袋の製作し、環境問題を考える」「資質・能力を育てる教職カリキュラム研究」第２集名古屋学芸大学教職課程研究会編・刊p117～p121
・小学校家庭科教科書「わたしたちの家庭科５・６」（開隆堂）
・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説技術・家庭編
・中学校学習指導要領　技術・家庭科家庭分野の改訂のポイント
NITS(独立行政法人教職員支援機構)
https://www.nits.go.jp/materials/youryou/
・中学校技術・家庭科（家庭分野）教科書「新しい技術・家庭　家庭分野」（東京書籍）
・NHK高校講座「家庭総合」
https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/katei/
・教育実地研究の手引き（教育実習）総論編（愛知教育大学）
・教育実地研究の手引き（教育実習）小学校編（愛知教育大学）
・教育実地研究の手引き（教育実習）中学校・高等学校編（愛知教育大学）